

災害生き抜く強さを 原発避難の児童ら歌劇出演 6月芦屋



村嶋由紀子さん（左端）の指導を受け、歌や演技を練習する出演者ら＝芦屋市宮塚町



音楽で東日本大震災の被災者支援に取り組む兵庫県芦屋市の「奇跡の街合唱団」が6月2日、原発事故や豪雨災害を題材にした新作ミュージカル「夢学校－いのちの薔薇（ばら）園」を同市で初演する。東京電力福島第1原発事故を機に兵庫や大阪に移った避難者も出演。災害や差別に負けず、力強く生きようとする登場人物の姿に自らの境遇を重ね、「震災の影響は続いている。関心を持ってほしい」と訴える。（金 旻革）

合唱団は、声楽家の檀美知生（だんみちお）さん（72）と妻の村嶋由紀子さん（71）＝芦屋市＝が主宰。東日本大震災の発生後、岩手県陸前高田市などで音楽会を開催し被災者を励ました。これがきっかけで被災児童とミュージカルを制作。原発事故をテーマにした作品も上演し、避難者が舞台上がる機会を設けてきた。

バーネットの児童文学「秘密の花園」を参考に、村嶋さんがオリジナルの脚本を手掛けた。舞台は架空の外国の街で、原発事故で避難してきた子どもたちが暮らす。街を豪雨が襲い、高台の屋敷に逃げようとするが、政府の役人は「資格のない人間は入れない」と突き放す。避難者の少年は「僕らはみな同じだ！」と反論するというストーリー。

村嶋さんは「子どもの成長する姿から、災害があっても逃げて生き抜く大切さを伝えたい」と話す。

約40人の出演者のうち、福島県や関東地方から避難してきた小学生は6人。2012年に横浜市から移った芦屋市立潮見小3年の男子児童（9）もその1人だ。

福島原発事故の発生時、男子児童は1歳半。原発から300キロ近く離れた自宅周辺にも、局地的に放射線量が高くなる「ホットスポット」が生じた。外出もままならず、母（45）の心労も重なって移住を決断した。男子児童は「放射能は今も人の暮らしに悪い影響を与えている。（舞台を通じて）大変な思いをしていることを知ってほしい」と話し、稽古場や自宅で練習に励んでいる。

6月2日午後3時、芦屋市業平町の「市民センター ルナ・ホール（大ホール）」で開演。前売りは一般2500円、中高生千円、避難者と小学生500円。村嶋さんTEL0797・22・9438